

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-55	高等学校	国語科	古典B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	古B 352	高等学校 改訂版 古典B		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条ならびに高等学校学習指導要領に示された目標を達成し、学習内容の十分な実現達成をはかり得る、標準的な教科書として編修した。

1. 古典のすぐれた文章に触れることによって、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、言語文化の伝統を理解し、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. すべての学習の根幹といえる言語の教育としての国語科の立場を重視し、社会で求められる言語力を身に付けさせるとともに、伝統的な言語文化に親しみ、これを尊重する態度を養うことができるよう配慮した。

2. 対照表

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文編 第 章・第 章	古典としてすぐれた作品を採録し、教材を味読することを通して豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した(第1号)。 主として随筆・評論教材を通して、真理を探究するさまざまな姿を示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけるように考慮した(第1号)。	p11～258 p19～31, p49～58, p137～147, p175～187, p236～246
	「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。	p32, p39, p48, p53, p80, p198, p203, p212, p226, p243
	古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、生徒が現代の社会や人間関係にも共通する問題として考えを深められるようにした(第3号)。	p19～31, p33～48, p59～67, p81～94, p130～136, p148～174, p213～225, p227～235, p248～252
	古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実に即して考察できるよう配慮した(第4号)。 生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p91～94, p99～114 p28～31, p50～51, p54, p56～57, p115～127, p130～131, p192～194, p253～258
	主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした(第5号)。 各単元に解説のページをもうけて時代背景や作者・作品などについて概説するとともに、「言語活動」を適宜設定して、我が国や中国の伝統的な言語文化を解説し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)	p95～98, p175～187, p188～191, p236～246 p11, p19, p32, p33, p39, p48, p49, p53, p59, p80, p81, p99, p115, p129, p137, p148, p175, p188, p195, p198, p203, p212, p213, p226, p227, p236, p243, p247

<p>漢文編 第 章・第 章</p>	<p>古典としてすぐれた作品を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した（第 1 号）。</p> <p>主として思想教材を通して、真理を探究するさまざまな姿を示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけるように考慮した。（第 1 号）。</p> <p>「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第 2 号）。</p> <p>古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、生徒が現代の社会や人間関係にも共通する問題として考えを深められるようにした（第 3 号）。</p> <p>古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、普遍的な人間の感情を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実にも即して考察できるよう配慮した（第 4 号）。</p> <p>生命や自然に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第 4 号）。</p> <p>主として紀行教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした（第 5 号）。</p> <p>各単元に解説のページをもうけて時代背景や作者・作品などについて概説するとともに、「言語活動」を適宜設定して、中国や我が国の伝統的な言語文化を解説し、興味・関心を喚起できるようにした（第 5 号）。</p>	<p>p260～408</p> <p>p319～325</p> <p>p280, p310, p326, p384</p> <p>p334～335</p> <p>p262, p265～272, p281～294, p338～339, p343～351, p352～372, p400～408</p> <p>p296～299, p341～342</p> <p>p330～333</p> <p>p260, p265, p273, p280, p281, p295, p302, p310, p311, p319, p326, p327, p337, p343, p352～353, p373, p384, p385, p392, p400</p>
<p>付録等</p>	<p>見返し・口絵は、写真・地図・図版を中心に参考資料を用意し、古典読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるよう配慮した（第 1 号・第 5 号）。</p> <p>付録として「古典文学史年表」「文語文法要覧」「品詞の識別一覧」「和歌の修辞一覧」「漢文重要語彙一覧」「漢文基本句形一覧」「主要新旧字体対照表」等を置き、古典読解に必要な知識を身に付けるとともに、言語を中心とする我が国や中国の伝統的な文化について、興味・関心を喚起できるようにした（第 1 号・第 5 号）。</p>	<p>見返し・口絵</p> <p>p410～432</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>学校教育法第 5 1 条 1 号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第 3 号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の目標を踏まえ、各編の各教材の最後に「学習」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の主題に対する理解を深め、自らの考えを的確に表現する能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-55	高等学校	国語科	古典B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	古B 352	高等学校 改訂版 古典B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 学習指導要領の総則に示す教育の方針や教科としての「古典B」の目標を達成するために、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。

(1) 単元構成、教材選定などにおいては、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるように考慮した。「国語総合」における指導内容をさらに推し進め、古文・漢文を読むために必要な能力を定着させることをねらうとともに、古典に理解と関心を深め、古典に親しむ態度を養うことにより、現代を生きる生徒のものの見方、感じ方、考え方を広めることを意図して編修した。

(2) 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、言語文化の理解・享受を通して、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。

2. 「2 内容」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。

(1) 「指導事項」については、古典として価値のある作品の中から、当時の人間、社会、自然などがよく描かれ、それらに対する作者や登場人物の思想や感情を十分に読み味わうことのできるものを教材として選定し、学習内容が十分に達成できるようにした。

(2) 「言語活動例」については、読むことの学習と有機的に関連させながら行うことができるように配慮したほか、主として「言語活動」を通してまとまった学習ができるよう工夫した。

ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。『枕草子』(p.53)「故事・寓話」(p.260~264)

言語の変遷について調べさせるとともに、言語感覚を豊かにすることができるように配慮した。また、我が国の文化と中国の文化との関係にも理解を深めることができるように配慮した。

イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。『大和物語』(p.39)『竹取物語』(p.48)『大鏡』(p.198・203)『玉勝間』(p.243)「唐宋八大家について調べる」(p.280)「換骨奪胎」(p.310)『源氏物語』と『白氏文集』(p.384)読み比べの対象として、異なる時代・文種の作品を提示して、広く読書に親しみ、調査に対する態度を養うことができるようにした。また、我が国の文化と中国の文化との関係にも理解を深めることができるように配慮した。

ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。

主として各教材の「学習」を通して、読むことの学習と有機的に関連させながら行うことができるように配慮した。

エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。「貴族の生活と年中行事」(p.32)「貴族の衣服と色」(p.80)「貴族の呼び名 官職と位階」(p.212)「平安朝の結婚」(p.226)「唐宋八大家について調べる」(p.280)「孔子と老子」(p.326)

古典に関連する文章を書き下ろし、我が国や中国の文化の特質に理解を深めることのできるような課題を提示して、広く読書に親しみ、調査に対する態度を養うことができるようにした。

3. 「3 内容の取扱い」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。

(1) 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。古文と漢文の合冊形態として、偏りなく学習できるように教材を選定した。

(2) 古典を読み深めるため、音読、朗読、暗唱などを取り入れるようにする。『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』(p.116~123)

(3) 文語文法の指導は読むことの学習に即して行い、必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにする。各教材の「学習」や脚問において、適宜身に付けられるように配慮したほか、「付録」にも実用的な資料を用意した。

(4) ア 教材は、言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう、文種や形態、長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。選定にあたっては、時代・文種や難易等に配慮し、ジャンル別の単元構成とした。

イ 教材には、日本漢文を含めること。また、必要に応じて近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。「日本の詩」(p.300~301)

2. 対照表

学習指導要領の内容 図書の内容・ページ		指導事項						言語活動例			配当時数
		ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。	イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。	ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。	オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。	カ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。	イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。	ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。	オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。	
古今著聞集	12～13	○	○	○	○					○	
沙石集	14～15	○	○	○	○					○	
宇治拾遺物語	16～18	○	○	○	○					○	
徒然草	20～27	○	○	○	○	○				○	
方丈記	28～31	○	○	○	○	○				○	
言語活動 貴族の生活と年中行事	32						○				○
伊勢物語	34～37	○	○	○	○	○				○	
大和物語	38～41	○	○	○	○	○				○	
言語活動 『後撰和歌集』との読み比べ	39							○			○
竹取物語	42～48	○	○	○	○	○				○	
言語活動 『今昔物語集』との読み比べ	48							○			○
枕草子	50～58	○	○	○	○	○				○	
言語活動 現代語との意味の比較	53						○				○
源氏物語	60～67	○	○	○	○	○	○			○	
大鏡	68～79	○	○	○	○	○	○			○	
言語活動 貴族の衣服と色	80						○				○
更級日記	82～90	○	○	○	○	○	○			○	
建礼門院右京大夫集	91～94	○	○	○	○	○	○			○	
十六夜日記	95～98	○	○	○	○	○	○	○		○	
平家物語	100～107	○	○	○	○	○	○			○	
義経記	108～114	○	○	○	○	○	○			○	
万葉集	116～118	○	○	○	○	○	○			○	
古今和歌集	119～121	○	○	○	○	○	○			○	
新古今和歌集	122～123	○	○	○	○	○	○			○	
春夏秋冬	124～127	○	○	○	○	○	○			○	
発心集	130～131	○	○	○	○	○	○			○	
今物語	132～133	○	○	○	○	○	○			○	
十訓抄	134～136	○	○	○	○	○	○			○	
枕草子	138～147	○	○	○	○	○	○			○	
源氏物語	149～169	○	○	○	○	○	○			○	
堤中納言物語	170～174	○	○	○	○	○	○			○	
俊頼髄脳	176～179	○	○	○	○	○	○			○	
無名抄	180～183	○	○	○	○	○	○			○	
無名草子	184～187	○	○	○	○	○	○	○		○	
藤篋冊子	189～191	○	○	○	○	○	○			○	
おらが春	192～194	○	○	○	○	○	○			○	
大鏡	196～207	○	○	○	○	○	○			○	
言語活動 菅原道真の伝承について調べる	198						○				
言語活動 『古今著聞集』との読み比べ	203							○			○
増鏡	208～211	○	○	○	○	○	○			○	
言語活動 貴族の呼び名一官職と位階一	212						○				○
蜻蛉日記	214～217	○	○	○	○	○	○			○	
柴式部日記	218～221	○	○	○	○	○	○			○	
和泉式部日記	222～225	○	○	○	○	○	○			○	
言語活動 平安朝の結婚	226						○				○
とりかへばや物語	228～231	○	○	○	○	○	○			○	
しのびね物語	232～235	○	○	○	○	○	○			○	
風姿花伝	237～239	○	○	○	○	○	○			○	
玉勝間	240～243	○	○	○	○	○	○			○	
言語活動 『徒然草』との読み比べ	243										○
去来抄	244～246	○	○	○	○	○	○			○	
西鶴諸国ばなし	248～252	○	○	○	○	○	○			○	
雨月物語	253～258	○	○	○	○	○	○			○	

